令和５年度第２回柏市地域包括支援センター運営協議会会議録

１　開催日時

令和５年１０月１２日（木）午後１時３０分から３時まで

２　開催場所

柏地域医療連携センター　研修室（ハイブリット形式）

３　出席者

（1）委員

石山委員（会長），織田委員，鎌田委員，齊藤委員，高野委員，中村委員，前野委員，村上委員

（2）市

吉田健康医療部理事，梅澤地域医療推進課長，吉田高齢者支援課副参事，小林健康政策課副参事

（3）事務局（地域包括支援課）

恒岡課長，竹本専門監，阿部統括リーダー，長谷部副主幹，渡辺主査，布施主査，北村主査，山崎主査，松浦主任，喜田主事，中渡主事

（4）地域包括支援センター

山本柏北部地域包括支援センター長，新井柏北部第２地域包括支援センター長，大島北柏地域包括支援センター長，菅野北柏第２地域包括支援センター長，齊藤柏西口地域包括支援センター長，笠原柏西口第２地域包括支援センター長，村本柏東口地域包括支援センター長，志摩柏東口第２地域包括支援センター長，神津光ケ丘地域包括支援センター長，宮原柏南部地域包括支援センター長，三柴柏南部第２地域包括支援センター長，日笠沼南地域包括支援センター長

４　議題

地域ケア推進会議について

５　議事

事務局より資料１に沿って説明した後，意見交換を行った。主な内容は次のとおり。

＜意見交換＞

【石山会長】

初めに中村委員及び前野委員に，意見交換のテーマについて，補足があればお願いしたい。

【中村委員】

介護サービス担当者として訪問することではじめて，様々な問題が内包されていたことが見えてくるケースがあった。

例えば，預貯金なくぎりぎりの生活をしている家庭や知的障害の子の保護者である親が介護を受けているケース，キーパーソンである子に精神疾患があるケース，必要と思われる受診をしておらず専門職へとつないだケース等，考えさせられるケースが多々あった。

介護サービス事業者としては要介護認定を受けている高齢者の支援がメインではあるが，子や孫等家族からの虐待や，他分野の支援機関の介入に気がつかず，高齢者のみの支援をしていたケースもあると聞いている。一つの世帯を支援するに当たり，様々な情報をまとめる機関として，地域包括支援センターへも相談させてほしいと常々思っている。

【前野委員】

地域包括支援センター運営協議会に参加し，初めて柏市が高齢者に対してどのような支援をしているのかを知った。住民としては柏市の支援システムが他自治体と比較して標準以上であって欲しいという希望があるが，柏市のホームページを見ても，支援システム全体がどのようになっているのかがよくわからない。

また，どういう家庭が複数の課題を抱えているかをまず把握することが大切で，近所同士の関係が重要と思うが，一方で家庭の問題に立ち入ること，また立ち入られることを嫌がるかたもいるため，それぞれの人が相談しやすい体制にしていくと良いと考える。

【石山会長】

高齢者に対する支援の仕組みというものが存在しているのか，また，その水準が標準以上であって欲しいという点は，市民の切実な思いであるように考える。全国のデータの見比べも行っているが，柏市の取り組みというのは，全国の中でも先進的な取り組みを行っている地域であると認識している。

各家庭が抱えている課題を専門機関等へ相談することはハードルが高い面もあり，そういった心理を踏まえつつ，今後どのように支援が

必要な家庭を発見し，関わっていくかも課題であると考える。

家庭の中へ入っていく相談の専門職として介護支援専門員の立場から，齊藤委員より意見を頂戴したいがどうか。

【齊藤委員】

重層的支援体制整備事業は，柏市では昨年度から始まっており，研修でも取り上げているが，介護支援専門員全体にはまだ浸透しておらず，複合的・重層的な支援が必要な際にどこへ相談をしたら良いかわからないというのが現状であり，まずは地域包括支援センターに相談をするよう，柏市介護支援専門員協議会の中では伝えている。

様々な世帯を支援しているなかで気になるケースとして，障害者手帳は持っていないが，知的障害の疑いがある子を親が一生懸命面倒を見ていたケースで，８０５０を過ぎ，９０歳と６０歳，１００歳と７０歳の世帯となった時に，親の介護が必要となったが，その子がキーパーソンとしてサービス導入の決断ができないといったケースがある。また，これまで支援者が介入してこなかった世帯に様々な支援者が入ることで摩擦が起き，サービスは必要ないと断られる等，支援者が本人のためにと行ったことが，全部無になってしまうようなことも多々ある。

沼南地域包括支援センターの地域ケア推進圏域会議に参加し，障害者手帳がないかたをどのように支援につなげていくかを障害分野の相談支援専門員と意見交換することができたのは，とても良い機会であった。

【石山会長】

専門職として本人に対してこの支援が必要であるという価値判断と当事者の要望が必ずしも一致しないことに対する擦り合わせが難しく苦慮されていることが分かった。

介護支援専門員の相談先として地域包括支援センターを周知していることは重要である。

介護支援専門員も大変忙しいと思うが，定期的に家庭の中に入っていくことが責務となっているからこそ問題が見えてくる稀有な存在であり，期待されるところが大きい。

【鎌田委員】

地域ケア推進圏域会議のような，様々な専門職が集まり情報を共有

する機会はこれからますます必要になると感じている。

民生委員として担当地域を回るなかで，高齢者世帯の一人が入院や施設入所となり，残されたかたがゴミ出し等の日常生活の活動が難しくなるといった状況が増えていると感じている。

このようなケースは地域包括支援センターへつなぎ，支援に入ってもらっているが，多問題を抱えている世帯の支援はセンターだけでは対応しきれないケースが多々ある。例えば，妻が施設に入り，家族も施設への入居希望があるが，自宅の処分に困り施設には入れずにいるケースもある。

本人への支援だけではなく，様々な身の周りの問題が絡んできて，その問題を解決するためには，重層的な支援体制が絶対に必要であると実感している。

【石山会長】

ゴミ出しなどから自宅の処分まで非常に多岐にわたる問題があり，生活に関連するすべてにアクセスしながら解決していかなければならないという状況が見えてきた。

複数の課題をもつ世帯の発見の機会やアプローチの提案について，地域でサロン活動をされている立場から，村上委員の意見はあるか。

【村上委員】

ボランティアとして関わっているサロンに参加されていた 1 人暮らしのかたのケースを紹介する。サロンで会うたびに物忘れが進んでいるのではないかと感じていたところ，近隣のかたからも本人の行動に困っていると相談があり，民生委員と地域包括支援センターの職員と共に本人の不安をお聞きし，月に 1 回程度訪問する子に本人の現状を粘り強く訴えたことで最終的には本人の施設入所が決まった。

このケースでは近隣住民が本人をよく気にかけ，関係者や専門職に相談したことが支援に結びついたと考える。

【鎌田委員】

元気な高齢者はサロン活動に参加できて，仲間ができ情報が入ってくるが，外出もなかなかできないかたに対しては，ゴミ出し支援や買物支援等，日常生活の不足を補う地域の見守り活動が重要で，最近の需要の高まりから基盤ができ始めてきている。

【石山会長】

委員の各立場から意見をいただいたが，事務局として今後の方向性等について一言お願いしたい。

【事務局】

委員が各分野の立場から日頃の業務や活動の中で把握されている高齢者の実情や課題などについて，具体的に伺うことができた。

高齢者の支援は，その世帯の課題に応じて，属性や世代を超えて各専門機関が連携し，課題解決に当たる必要があり，そのような事案は高齢者人口の増加と併せ，増加することが考えられる。

今後，地域包括支援センターに配置している各専門職が専門性を発揮しつつ，関係機関や市民の方々と十分な連携のもと，多様なニーズを持つ高齢者世帯が地域において，安心して暮らせるよう市域全体で取り組んでいく。

６　報告事項

(1) 第９期柏市高齢者いきいきプラン２１について

事務局より資料２に沿って報告を行った。

(2) 介護保険法の一部改正に伴う地域包括支援センターの業務の見直しについて

事務局より資料３に沿って報告を行った。

(3) 介護予防支援及び総合事業に係るケアマネジメント業務の委託について

事務局より資料４に沿って報告を行った。

７　傍聴

(1) 傍聴者

３人

(2) 傍聴の状況

傍聴要領に反する行為は，見受けられなかった。

８　次回開催日時（予定）

令和６年２月１日（木）午後１時３０分から３時３０分まで